

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-------------	-------	-----	-----------------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i)

学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

対象に該当しない

☐ チェック
- ②

志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☐ チェック

一般入試、推薦枠、女子枠、外国人留学生枠、社会人枠を設け、多様な入学希望者を受け、10月18日に専攻の設置に関する記者会見を行うというスケジュールと連動し、学生募集を遅く開始したため、入学定員15名に対し入学希望者2名であった。令和6年度は、早期に学生募集を開始するとともに企業へのアプローチを積極的に、計画どおりの入学定員を確保する。
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学希望者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特長を活かすなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）、含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する

☒ チェック
- ⑨

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑩

計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない

☒ チェック
- ⑫

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない

☒ チェック

認定を受ける計画が進んでいる

☐ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学
-------------	-------	-----	-----------------

⑬	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本計画では、自治体や企業等と連携した課題解決型学習(PBL)や探求型学習(fieldwork)を行う。既に、本学は、産官学の連携による「DX協創プラットフォーム」を形成し、「協創データ活用によるスマートシティ推進事業」に取組んでいる。健康寿命延伸のため、市民にスマートウォッチを貸与して健康データを取得し、本学がデータを分析し、その結果を保健指導に役立てるスマートシティデータ連携基盤」を構築する事業が進められており、観光、行政データ、健康診断データ、公共交通データ、国保データ、地域コミュニティデータと連携し拡張する。本計画は、これらの取組みを発展させ、スマートシティデータ連携基盤に蓄積される情報と市内の有用な要素をデジタルサインとして構築する。出生率を始とする目的変数に人口、医療、保育、教育、産業、インフラ、空室等についてデジタル空間でシミュレーションを行い、バックキャストのアプローチにより、フィジカル空間である地域社会の再設計を考案し提案する「デジタルサインDX-AI教育」を目指す。150人程度の匿名化された小規模集団から構築を始め、行政と連携しマイナンバーカードのデータと紐づけながら集団全体のバイを拡大する。ここで得られたデータは、データサブリチェンとしての様々な業種でのデータ活用が見込まれる。	本格的な課題解決型学習(PBL)や探求型学習(fieldwork)の策定・実施に向けて、山陽小野田市や関係企業等と協議しながら、進捗状況や課題を精査中である。一つの取組として、地域の課題を解決するため「DX協創プラットフォーム」に本学数理情報科学科の学生と教員が参画しており、市職員や企業従業員らとともにデジタル技術を活用した先進的なアイデアを出し合い成果発表会にて提案した。また、山陽小野田市が実施している「協創データ活用によるスマートシティ推進事業」の取組の一つとして、スマートウォッチや健康データを活用した健康づくり事業について、現在のプロジェクトの関連した取組みと連携しながら事業化するとともに、段階的にスマートシティデータ連携基盤を構築していくこととしている。その他、数理情報科学科教員による「山陽小野田市における出生数低下の要因分析について」という課題研究に取り組んだ。これらの取組を本専攻の教育に繋げて行くとしている。	数理情報科学専攻では、バックキャストिंगにより社会課題への貢献できる思考を身につけた高度情報専門人材を養成することを目指している。本専攻での研究やカリキュラムとして実施しているため、現時点において課題等の抽出作業中であり、分析結果に基づき、「デジタルサインDX-AI教育」の確立を目指す。

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、山陽小野田市内の小学校（11校）、中学校（6校）高校（4校）と、大学・大学院までの市内一貫教育、教育支援、生涯学習支援及び生涯学習を協力をし行っている。山陽小野田市、市教育委員会、市内各中学校「包括連携教育・協力に関する協定」を締結している(令和2年)、文部科学省の「GIGAスクール構想」により、市内の小学校・中学校・高校に1人1台ずつタブレット端末が配布されたことを受け、市内のICT学習環境を活用して本学と市内4高校をオンラインで繋ぎ、Moodle(Web支援)、Miro(Web黒板)、ICT端末(タブレット、電子黒板)を駆使して、大学生と高校生が一緒にICTアクティブラーニングを行う共同授業「ユニバーサル時代の高大連携授業」を令和4年に実施した。今後、数理情報科学専攻では、山陽小野田市をまるごとデジタルサイン化し、小・中・高校生がバーチャル空間で主人公になり、デジタルサイン・テクノロジーによるSociety5.0の世界を体験する取組を行う。仮想空間の市内で、健康・医療、環境・防災、産業・観光などの課題に沿って未来を予測し、児童・生徒の自発的な「なぜ」、「どうして」を引き出し、試行錯誤しながら課題に立ち向かう「探求心」を育てる教育により、未来の「デジタルサインDXデータサイエンティスト」を地域で養成する。	本学が山陽小野田市、市教育委員会、市内高校と令和2年度に締結した「包括連携教育・協力に関する協定」に基づき、山陽小野田市市内の小学校（11校）、中学校（6校）高校（4校）と、大学・大学院までの市内一貫教育、教育支援、生涯学習支援及び生涯学習を協力をし行っている。取組の一つとして、市内の小・中高の連系教員に対してカレント・セミナーを実施して、子供たちの「探究心」を養うための指導等の問題点と対応策を模たことから、これをベースに、小中高生の「デジタルサインDXデータサイエンティスト」を養成していく土台作りを図った。また、「DX協創プラットフォーム」の最終発表会において、本学数理情報科学科等の学生等が参加して、先進的なアイデアを出していることから、これを「デジタルサインDXデータサイエンティスト」養成に繋げて行くとしており、現在課題等を精査中である。山陽小野田市をまるごとデジタルサイン化し、小・中・高校生がバーチャル空間で主人公になり、デジタルサイン・テクノロジーによるSociety5.0の世界を体験する取組に向け、バーチャル時間・空間で健康・医療、環境・防災、産業・観光などの課題に沿った未来の予測、児童・生徒の自発的な「なぜ」、「どうして」を引き出し、「探求心」を育てる教育について、先行事例に係る情報収集を進めている。	数理情報科学学科と専攻において、現時点でのさまざまな課題等の抽出作業を行っており、分析結果に基づき、初等教育段階でのデジタルサイン・テクノロジーによるSociety5.0の世界を体験する仕組みづくりを確立し、未来の「デジタルサインDXデータサイエンティスト」を養成していくこととしている。

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子中高生やその保護者へのデジタル分野に対する興味関心や理解を深める取組を推進し、女性の活躍状況とキャリアアップ・デザインを可視化する広報を行う。本学、近隣大学、企業で構成する「やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム」に連携し、女性デジタル技術者のロールモデルを学ぶセミナーを行い、女子学生に対するキャリア教育の充実を図る。また、女子学生の実施、女子寮の整備を行うとともに、保育所を設置して子育て中の女性も安心して学べる環境を整備する。本学が設置する薬学部では女子の入学比率が高く(約60%)、本専攻のデジタル創発分野への入学者を確保し、ジェンダー・イノベーションを加速する。本学では、令和4年度に文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのカレント教育推進事業」に採択されており、学び直し機会として社会人対象のカレント教育プログラムを一層拡充して地域全体における「多様な知」の循環を促進する。さらに、山口県が設置する海外拠点と連携し、山口県内企業の進出拠点が多数形成される東南アジアを中心に、現地大学学生に本専攻の魅力を伝え、留学を促す取組を行うとともに、外国人留学生寮の整備、留学生対象の授業料減免、教育補助費としてのエリローシップの取組を行う。	女子中高生やその保護者へデジタル分野の興味関心や理解を深める取組みとして、8月のオープンキャンパス、9月の大学開放にてデジタル分野の体験や研究紹介を行った。本学、近隣大学、企業で構成する「やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム」でのセミナーに加え、本学教職員向けに「働くババママ交流会」を初めて開催し、女性のキャリアアップワークライフバランスについての意識醸成を行った。入試制度としては、令和6年度入試における推薦入試において女子枠の実施及び社会人入試、外国人入試を実施した。令和6年には山陽小野田市に複合施設「ASKエラ」内に女子寮の整備が完了し、令和6年4月より供用開始予定（本専攻の女子学生が入居済み）である。社会人学生の確保に向け、主に山口県内の自治体・企業等を対象として、工学部数理情報科学科に専任した教員8名によるトークセッションを開催した。その後、地域の金融機関、製薬企業とは更に情報交換を深め、社会人のカレント及びリスキリングの必要性及び本専攻の魅力を伝えた。外国人留学生入試の出願資格を一定の日本語能力を有する者としたため、留学を促す取組みとして令和5年11月に日本で開催された外国人留学生・大学・専門学校進学フェアへ参加した。また、留学生への学生寮の案内、留学生対象の授業料減免、留学生交流会等のフォローアップを実施した。	次年度は、早期に学生募集を開始するとともに自治体や企業へのアプローチを積極的に行い、より多様な学生確保を目指す。外国人へ留学を促すため、引き続き外国人学生のための進学説明会へ参加する。

④ 他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
山口大学、宇部高等、企業と連携した「DAI(Diversity×AI)ラボ」により、AI技術の活用についての理解を促進し、組織・分野・立場の枠を超えて多様な研究者が集い、アイデアを交換・共創することにより異分野融合研究チームの形成を行う。また、東京理科大学と連携し、社会に不足するデジタル人材を輩出する仕組みを構築する。令和4年度から文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのカレント教育推進事業」に両大学が連携して申請しており、応用基礎的なDX分野の能力を育成しリスキリングの推進、キャリアアップに繋げる取組を行っている。また、本学は、MOTIに強みを持つ東京理科大学、インベストメント・マネジメント社、イノベーション・キャピタル社の4者で、学生の起業家教育とスタートアップ支援に関する連携協定を締結することで合意している。さらに、アントレプレナーシップを醸成する教育、新しい技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけることで経済的価値を創出する技術経営教育に取組むとともに、革新的な技術シーズを有する東京理科大学と連携しオープン型地域スタートアップを加速する。	AI技術等の活用に関する山口県内の大学・高等・企業等との連携事業として、「DAI(Diversity×AI)ラボ」「大学リーグやまぐち（データサイエンス教育ワーキンググループ）」等があり、組織・分野・立場の枠を超えた情報交換・交流、異分野融合を目指した取組みが行われている。工学部数理情報科学科として関わりが始まっており、工学研究科数理情報科学専攻も同様に連携を深めていく予定である。MOTIに強みを持つ東京理科大学との連携については、文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのカレント教育推進事業」において、本学の外部理事及び教員が講師を務めたオンライン講座（「地域産業の未来」「モノづくりとDX」）を実施した。また、学生の起業家教育、スタートアップ支援、アントレプレナーシップ醸成の推進のため、東京理科大学、インベストメント・マネジメント社、イノベーション・キャピタル社、本学の4者間での連携協定に基づき、革新的な技術シーズの活用を含めた取組みを推進する予定である。	

大学名	山陽小野田市立山口東京理科大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）
-----	-----------------	------	-----------------

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度																	
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	380	420																	
		入学者数	人	407	449																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	380	420	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	407	449	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.07	1.07	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	0.995	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,620	1,710																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	1,636	1,774																	
		編入学者数	人	6	4																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.04																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	902,661																		

特記事項

・3-3.学士課程 の「収容定員等」「編入学定員数」は若干名である。